

シン・研修報告書 富山県医療ソーシャルワーカー協会

令和6年度災害支援に関する研修会

令和7年2月1日(土)

「能登半島地震でのDWAT活動から学ぶこと、考えること」

「ソーシャルワーカーとして災害にどう向き合うか」

講師 京都DWAT 河村 史子 氏

「共に学ぶ、共に守る能登半島地震での支援活動と未来への準備」

講師 京都DWAT 桑田 大輔 氏

研修会の感想

アルペンリハビリテーション病院 村上由希子

今回の研修では京都DWATの講師の方々に、DWATの活動内容や実際に体験したことなど貴重なお話を聞かせていただきました 特に印象的だったのは、**日頃のソーシャルワーク実践が災害支援につながるという言葉でした。**DWATの1つのチームが滞在する日数は4日と限られており、被災地で起きている生活課題を自分の目で情報収集し 即座にアセスメントしプランを立て実行する、そして残された次の課題を次の**チームへ引き継ぐ**という活動をしていることが分かりました いざという時に120%の力を出し切れるよう、躊躇しないで挑めるよう、**日頃の実践力を身につけておくことが求められているのだと感じました。**災害支援においても 人に寄り添う、支えるソーシャルワークの根底は変わらず、最大限のネットワークを駆使して講師の方々が支援を展開しておられた事に非常に感銘を受けました。

広報事業部の
一言つぶやき

日頃の実践の質を常に高め遂行するからこそ、災害などの非常時に我々ソーシャルワーカーの力を被災地の皆様に役立ててことができますね。だからこそ、日々の実践の積み重ねが大切だとつくづく痛感させられました。

